はしがき

本報告書は、神戸大学大学院国際文化学研究科異文化研究交流センター（Intercultural Research Center、通称 IReC〔アイレック〕）の 2012 年度研究部プロジェクト「EU の内と外における共生の模索」、及び国際部の活動をもとに編集した。

１．研究部プロジェクトについて
プロジェクト名：EU の内と外における共生の模索
代表者：　坂井一成（異文化コミュニケーション論講座）
分担者：　齋藤　剛（異文化コミュニケーション論講座）
　　中村　覚（異文化コミュニケーション論講座）
　　岩本和子（現代文化論講座）
　　村尾　元（情報コミュニケーション論講座）
　　西田健志（情報コミュニケーション論講座）
　　寺尾智史（異文化研究交流センター協力研究員）
　　松井真之介（メディア文化研究センター学術推進研究員）
　　植　朗子（異文化研究交流センター協力研究員）

本プロジェクトは、2008 年度から 4 年間にわたって IReC で蓄積してきたヨーロッパ研究プロジェクト（「多言語・多民族共存と文化的多様性の維持に関する国際的・歴史的比較研究」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU―多民族共存への多視点的・メタ視点的アプローチ」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU―その理念、現実、表象」「ヨーロッパにおける多民族共存と EU―言語、文化、ジェンダーをめぐって」）の延長線上に位置付けられるものである。

本プロジェクトの目的と活動は以下のとおりである。
〔目的〕
本プロジェクトでは、EU を取り巻く国際環境の大きな変動に着目した。一つに、地中海の対岸での「アラブの春」とその余波での大量の難民の押し寄せである。ソーシャルメディア（SNS）を用いた社会動員を背景に突き進んだ「アラブの春」を受けて、EU としての移民政策や域内移動の自由についての見直しが迫られ、またノルウェーやフランスではイスラム原理主義者による深刻なテロ事件も起こった。もう一つは、ユーロ危機と欧州信用不安であり、これによりイタリアやギリシャやスペインなど多額の政府債務に苦しむ多くの国で、さらにドイツと共にその危機からの脱却を主導してきたフランスでも政権交代が起こったことである。
こうした EU 内外の大きな変動を受け、注目されるのが EU 各国はこれまで通り EU 自体を重視するのか、それともむしろナショナルな枠組みに閉じこもるのかである。そしてこうしたプロセスのなかで、EU 市民のアイデンティティにはどのような変化が生じているのかについて、特に近年の地中海地域の変動、ソーシャルメディアの役割、日 EU 関係の動向に焦点を当てて、これまでの異文化研究交流センターとしての EU 研究の延長線上で多角的に考察することとした。

〔活動〕

講演会（全 4 回）と、ブリュッセルでの国際ワークショップを実施した。

講演会は以下のとおりである。

1）2012 年 6 月 22 日 “Japan-EU’s Relationship:Limits and Hopes in the New Century” Lluc López Vidal（カタロニア放送大学准教授）

2）2012 年 10 月 31 日 「日本におけるムスリム―ヨーロッパのムスリムと比較の観点から」 Samir A. Nouh（同志社大学教授）

3）2012 年 11 月 12 日 「移民を受け入れ、なんとか円満に共存し、国力の源泉にするシステムをつくりあげているオーストリア」 高坂哲郎（日本経済新聞編集委員）

4）2013 年 1 月 11 日 「アラブの春とトルコの EU 加盟の新たな課題」 八谷まち子（九州大学教授）

そして、神戸大学「平成 24 年度ブリュッセルオフィスを拠点とするワークショップ等助成事業」及び国際文化学研究科「平成 24 年度研究教育プロジェクト」の助成を得て実施した、日欧国際ワークショップ「政治・経済・社会の劇変と EU におけるアイデンティティ形成」（2013 年 2 月 6 日、ブリュッセル自由大学（オランダ語系））も、本プロジェクトの一環に位置付けられる。

本ワークショップでは、以下の報告がなされた。プロジェクトメンバーからは、坂井が司会・総括を務め、岩本和子、西田健志、松井真之介の 3 名が討論者として参加した。

1）“From Crisis to Integration? – European Diversity and Identity, Transnationalism, and Institutional Change” Kolja Raube（ルーヴァンカトリック大学講師）

2）“Political Change in North Africa and Its Influence on the EU” 齋藤剛（神戸大学准教授）

3）“Evaluating the City Characteristics through Geo-Tagged Tweets” 村尾元（神戸大学准教授）

4）“What crisis? Japan, EU and Political Change in Middle East and North Africa” Noemi Lanna（ナポリ東洋大学准教授）

2. 国際部の活動について

国際部では、協定校から招いた講師を中心として講演会等を行った。今年度は EU 諸国が対象で、ヨーロッパの政治、言語、文化状況や日欧関係をテーマとした。学術交流の推進とともに、交換留学やダブルディグリープログラム留学への意識を高めることも目的とする。講演は以下のものであった。

1）2012 年 5 月 11 日 「CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）から見たフランス母語学習者の言語運用能力―グルノーブル大学の場合」 東伴子（グルノーブル第 3-スタンダール大学准教授）

2）2012 年 7 月 19 日 “From Confrontation to Global Partnership: Europe and Japan ”（対立から協力へ：ヨーロッパと日本） Dimitri Vanoverbeke （ルーヴァン・カトリック大学教授）

3） 2012 年 9 月 24 日 「ドイツ大学教育制度改革と日本語教育―ハンブルク大学の場合―」 杉原早紀（ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所専任講師）

4）2012 年 11 月 28 日 “Between Long-distance Nationalism, Homeland Tourism and Production of a New Diasporic Identity” （遠距離ナショナリズムと祖国ツーリズムと新しいディアスポラ・アイデンティティの形成のはざまで～アルメニアを例に～）
Tsypylma Darieva （フンボルト大学社会秩序表象センター客員研究員／筑波大学特任准教授）

5）2013 年 2 月 22 日 “Undertanding Growth Strategies in Retailing —From Internationalization to

the Development of New Retail Formats”　Karine Picot-Coupey（レンヌ第 1 大学准教授）

また、ブリュッセルにおいて、IReC およびブリュッセル王立音楽院の共催により国際研究会（ベルギー研究会、代表岩本）を開催し、本研究科教員およびグローバル人材育成事業の一環として EU 文化研修で渡欧中の本研究科学生と、在欧のベルギー研究者や音楽院の教員、学生との学術交流活動を行った。研究会第 1 部は神戸大学ブリュッセルオフィスを会場とし研究発表と討論、第 2 部はブリュッセル王立音楽院を会場とし講演と演奏会を行った。EU の中心であり多言語・多文化状況のベルギーをめぐる芸術文化の諸相に多様な視点からアプローチし、考察した。

第 1 部

研究発表

１）ベルギーのアルメニア人コミュニティ

松井真之介（神戸大学大学院国際文化学研究科メディア文化研究センター）

２）見出されたフランドル―ユルスナール『黒の過程』(1968)における絵画をめぐって―

村中由美子（東京大学大学院仏文研究室博士課程）

３）炭鉱からみる近代―マニフェスタ 9 と’文化’資源としての＜炭鉱＞展を中心に

角本摩衣子（神戸大学人文学研究科博士課程／ブリュッセル自由大学客員研究員）

4）Some Viewpoints on Belgian and Flemish National Identity in Rolf Falter’s “Belgium, a History without a Country” (“België – Een geschiedenis zonder land” – Bezige Bij Antwerpen, 2012)

Freek Adriaens（ヘント大学講師）

第 2 部

講演　“Belgian Francophone Literature at the End of the 19th Century”

三田順（学術振興会特別研究員／神戸大学）

演奏会　“Belgian Art Songs”

ブリュッセル王立音楽院声楽科学生（講師　正木裕子）

以上のように、EU をめぐって政治・社会・文化から多面的な研究活動が進められ、次年度以降への展望も開けてきた年であった。関係各位に深くお礼申し上げたい。

坂井一成（国際文化学研究科准教授、異文化研究交流センター研究部長）

岩本和子（国際文化学研究科教授、異文化研究交流センター国際部長）